

船城の風

学校 HP <http://www.tamba.ed.jp/site/funaki/>



2024. 9. 2

校訓「培根達枝」につながる根っこの話

夏休みが終わりました。大きな事故やけがなく、船城っ子の元気な顔を見ることができ、とてもうれしいです。これも家庭の温かいかわりや地域の方の見守りがあってのことだと思います。また、ボランティアの方の花壇等への水やり、PTA や地域の方の奉仕作業のおかげで教育環境の整備や充実も図れました。この場を借りまして心からお礼申し上げます。

さて、船城小学校の校訓は「培根達枝（ばいこんたっし）」です。有名な言葉で、他の学校でも校訓とされています。「自分の根っこ」を鍛えることの大切さを伝えてくれています。今日の始業式は子どもたちに「培根達枝」の言葉を伝えながら以下のような「根っこ」の話をしました。

アメリカの大学で次のような実験があったそうです。木でつくったはこに土を入れ、ここに一粒のライ麦の種をまきます。水を与えながら、3か月間それを育てると、20 cmほどの小さくて弱々しい一本の麦の苗が育ちます。そして、その小さくて弱々しいライ麦が、その生命を支えていくために一体どれほどの根を土の中に広げているかを調べました。箱を壊し、土をはらい、目に見える根はすべてその長さを測り、肉眼でははっきりと分からない細くて小さな根も顕微鏡で見ながら細かく計って根の長さをすべて測ったそうです。ここで問題です。ライ麦の根の長さの合計は、どれぐらいになったでしょうか？

①50 cm ②200 cm (2 m) ③2500 cm (25m) ④5 km ⑤その他

⑤のその他はここには答えはありませんという意味で、「50 cmより短い」「5 kmよりも長い」と思ったら⑤を選びます。なんと正解は・・・。
子どもたちに聞いてみてください。



そんな話をしながら、生きることのすばらしさを伝え、最後に相田みつをさんの詩「夢はでっかく 根はふかく」を紹介しました。大きな夢を持ち、それを実現させるには丈夫な根っこを育てることが大切です。「根っこ」を育てるためには、教科書で勉強できる目に見える学力だけでなく、目に見えない力を育てることも大切です。例えば、あいさつであったり、そうじであったり、読書であったり、そんなことをコツコツがんばることも「根っこ」を育てることにつながります。今を輝くメジャーリーガーの大谷翔平さんも大切にされていることです。

2学期は長く、そして、たくさんの行事もあります。そんな中でしっかりと自分の「根っこ」を育ててほしいと思います。おうちの方も、子どもたちの「根っこ」を育てることを意識してかかわってもらえたらと思います。